

中長期支援の営業 注力

岐阜信用金庫 好岡政宏理事長

新春 金融トップ インタビュー

下

「日銀の政策金利引き上げに対する動きは、政策金利の引き上げに合わせ、預金などの金利引き上げを行い、昨年12月からは特別金利の定期預金の取り扱いを始めた。お客さまに対しても利上げの影響が行き渡るよう、質の高い金融サービスの提供を心がけている。資金運用面では利ざや拡大が見込まれ、中長期的にはポジティブな要素で

あると捉えている。金融政策の変更による市場動向を注視し、柔軟に金利の変更を行っていくことで、適正かつ堅実な経営をしている」

「今の課題、今年の重点方針は。お客さまのニーズは多様化かつ複雑化し、営業の質を高める必要がある。事業承継やM&A(企業の合併・買収)、DX(デジタルトランスフォーメーション)など中長期の伴走が必要なニーズが増えている。営業体制を転換し、一人一人が専門性を持って業務に

取り組める環境にし、外部出向も積極的に実施している。窓口、渉外共に新たなシステムを導入し、業務効率化にも取り組んでいる。次期中期経営計画を見据え、地域と当金庫が共に持続的に成長していく姿をイメージしながら、さまざまなことにチャレンジする」

「取引先の脱炭素経営を積極的の後押ししている。地域金融機関には中小企業の脱炭素化支援が強く求められている。中小企業向けのSBT認定では、提携しているコンサルティング

中小の脱炭素経営に積極対応

「今年の経済展望は。個人消費は物価高による消費者マインド悪化などマイナス要因は残るが、堅調な所得増加を背景に緩やかに伸長を続けていくだろう。企業活動は堅実な成長が続くとみている。しかし、米国などの国外政治や紛争に起因する、貿易関連の不確定要素によるリスクが強まっており、大きな影響を与える可能性がある」

「県内の動向は。物価高騰、人手不足の影響が強く、基幹産業である製造業では輸送費に至るまで影響が出ている。一方、非製造業は円安を背景にインバウンド(訪日客)が活況であり、底堅く推移するとみている」



「グ事業者と連携して企業ニーズに対応している。また、森林ジョークレジット(排出枠)の創出やクレジット購入希望企業の紹介にも取り組んでいる」

「4月には岐阜市の旧若宮町支店跡地ににぎわい創出拠点「G's Dream」がオープンする。『多くの人に親しんでもらいたい』を創出する、まちづくりの一助となる施設にしたい。『地域・人・企業の夢を創り、かなえる場所』をコンセプトに、子育て世代向け、学生向けのイベントをはじめ、幅広い世代に楽しんでもらえるセミナーなども行っていく」